

学校への不登校支援について

不登校児童・生徒の増加については、中野区においても喫緊の課題である。今年度、一人ひとりの状況を踏まえ、現在の状況と今後の学校への支援を含む不登校児童・生徒への支援の方向性についてまとめたので、以下のとおり報告する。

1 本区の不登校児童・生徒の状況

〔区立小中学校の不登校児童・生徒数〕 (人)

年度	H29	H30	R元	R2	R3
小学校	41	57	85	125	168
中学校	111	132	161	187	191
合計	152	189	246	312	359

〔不登校児童・生徒の出現率〕 (%)

年度	R元		R2		R3	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
東京都	0.88	4.76	1.06	4.93	1.33	5.76
中野区	0.86	5.17	1.24	5.84	1.61	5.73

※不登校児童・生徒数について

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあり、30日以上欠席した者(ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。)の数

2 不登校児童・生徒に対する中野区の居場所と相談体制

学校外における支援

〔教育支援室における通室人数〕 (人)

(1) 教育支援室

年度	H29	H30	R元	R2	R3
教育支援室	40	48	50	42	73

① フリーステップルーム

教育センター内にある学習室等で、居場所づくりとしての相談や学習支援、体験活動や少人数でのグループ活動を児童・生徒に行う。

② 教育支援室分室

学校、家庭及び教育センター以外の居場所として、中部分室(教育センター分室)、北部分室(野方図書館)、南部分室(南部すこやか福祉センター)に通室した児童・生徒に相談や学習支援を行う。

③ 巡回支援

家庭や学校を訪問し、教育センターに通いづらい児童・生徒に対して、相談や学習支援を行う。

【今後の課題】

- ・教育支援室や各分室に入室する児童・生徒数が増えているが、中野区北部の分室について、安全に通ったり活動をより充実させたりすることができるよう、検討していく必要がある。

(2) 教育相談室

教育上の悩みや問題を解消するために教育相談を行う。

- ①面接相談(1コマ 45分) ②電話相談
- ③中学校区派遣(週1回 半日) ④緊急時の学校派遣

【今後の課題】

- ・相談時間について、平日の夜や土・日曜日のニーズが高まっており、相談体制の拡充が必要である。
- ・中学校区派遣の時間が十分ではないため、区独自のスクールカウンセラーを配置する必要がある。

(3) スクールソーシャルワーカー

不登校やひきこもりの状態で、家庭環境や生活習慣等に起因する課題等があり、学校や相談機関との関わりがもちづらい児童・生徒及びその保護者に対して、福祉の専門家が家庭訪問や学校訪問を通して支援を行う。

[スクールソーシャルワーカー対応件数] (人)

年度	H29	H30	R元	R2	R3
教育支援室	19	20	25	36	42

【今後の課題】

- ・スクールソーシャルワーカーの拡充により、ケース数の増加や関係機関とのつながりが見られているが、激増する不登校児童・生徒数に対応するため、さらに充実させていく必要がある。

(4) 家庭からのオンライン参加

- ①学校からの授業配信
- ②NPO法人との連携

【今後の課題】

- ・小・中学校を問わず、家庭からリモートで授業参加する子どもがいる。時間を問わずに学習することができるようにするためには、区独自の体制をつくったり、オンライン教材を作成したりする必要がある。

学校内における支援

(5) 校内の別室における個別指導

- ・実施率 小学校 61.9% 中学校 100%
- ・利用者数(令和4年度) 小学校 28人 中学校 34人
- ・活動内容(個々の状況に応じた支援)
一人1台端末を活用したオンラインでの授業参加、個別学習、運動、工作、個別相談、ソーシャルスキルトレーニング等
- ・対応している教職員
授業時間ではない担任や担任以外の教員、養護教諭、スクールカウンセラー、心の教室相談員、学習支援ボランティア、教育支援室の相談員(巡回指導)等
- ・校内の別室における個別指導を活用した支援について

不登校対応担当教員をコーディネーター役とした支援方針			
欠席数	欠席 0~29日	欠席 30~89日	欠席 90日以上
主な支援者	別室指導支援員		スクールソーシャルワーカー
目標	新たな不登校にしない	90日以上の欠席にしない	関係機関につながっていない児童・生徒を0にする

【今後の課題】

- ・様々な教職員が関わり別室指導を継続させることで不登校状況に改善が見られ、教室に入ることができるようになった児童・生徒もいる。一方、1日の中で継続的に支援できる教職員がおらず、スクールカウンセラーも週1日勤務であるため、支援者がいない時間が生じることから、人的配置が必要である。

3 今後の支援の検討事項

- ・教育支援室分室の拡充(北部)
- ・教育相談室の相談時間の拡充
- ・校内における別室指導支援員の配置
- ・各学校のスクールカウンセラーの充実
- ・中学校区でのSSWの効果的な運用
- ・オンライン専門の支援員の配置